

着衣水泳講座

あごを
あげて！



8月23日（日）に着衣水泳講座を、木曾川西小学校・黒田小学校・木曾川東小学校で開催しました。

これは、昨年6月に木曾川中学校の生徒1名と黒田小学校の児童2名が、木曾川の水難事故で尊い命をなくされました。二度とこのようなことがないように、もし溺れた際の対処方法を学ぼうと『着衣水泳講座』を開催したものです。

当日は、小学生と保護者約80名の参加がありました。

西小学校では少し水温が低かったですが、児童、保護者とも上着・ズボンを着用しての水泳を行い、水着での水泳との差を確認しました。

講師の方からは、もしものことがあった場合「**あわてずに、大の字になって空を見上げて救助を待つように**」と指導があり、実際に行いました。出来た人、出来なかった人それぞれでしたが

出来なかった人には、ヒント（あごを、上に上げおなかも上にして力を抜いて自然体にする）を教えてください少しはよくなったかな～？



黒田小学校でも、準備体操をして、西小学校同様の練習をしました。

ペットボトルをお腹の上に乗せ、浮き輪代わりにする。また、ポリ袋を膨らませ浮き袋の代用にも教わりました。

黒田小学校でも、大の字になって浮くことが出来る人、出来ない人がいましたが、西小学校でも感じたのですが、思った以上に保護者の方は上手だな～と感じました。どこかで習ったのかなと思うほどの方も見えました。



東小学校では、当日参加の方も見え、一番たくさんの参加者となりました。

ここでも、先の二校と同じ練習を行いました。

もし、溺れている人がいたら一人で助けに行かないこと、人と人が腕をつなぎあい、人によるチェーンを作って溺れる人を助けるとか、溺れた人につかまれたときの対処法や、溺れた人を安全に岸まで連れてくる方法など、インストラクターと参加者の質疑応答などから細かな指導がなされました。


参加者からも、「着衣での泳ぎは重かった」「経験できて良かった」などの声も聞きました。

なお、中日新聞の記者さんが東小学校へ取材に見え、熱心に取材されていました。そのときの様子や感じが、8月24日（月）朝刊の13面に記事として掲載されていました。



中日新聞（8月24日） 朝刊

両手でペットボトルを持って浮く練習をする児童
◎一宮市木曾川東小



一宮では児童 着衣泳を体験

服を着たまま川や海で溺れた際の対処法を学ぶ講座が二十三日、一宮市内の三小学校のプールであり、小学生とその保護者約八十人が参加した。

講座は、昨年六月に市内の小中学生三人が木曾川で溺れて死亡した事故を受け、地元地域づくり協議会などが初めて開いた。

開いたのは木曾川東、木曾川西、黒田の三小。うち木曾川東小では水泳のインストラクターが「慌てないことが大事。『大』の字を上を向けば体が浮く。その状態で助けを待とう」とコツを伝授した。

長袖に長スボン姿の児童らは苦戦しながらも真剣な表情で取り組んでいた。六年の田中孝幸君（こ）は「重くて泳ぐのが大変だった。経験できて良かった」と話した。